

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 51人

② 算数 51人

5 留意事項

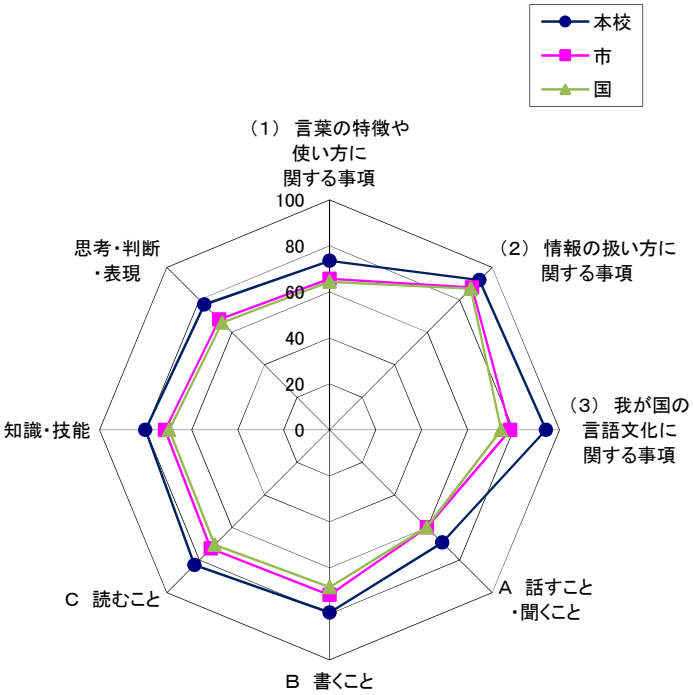
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	73.5	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	92.2	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	94.1	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	69.3	59.9	59.8
	B 書くこと	79.4	71.8	68.4
	C 読むこと	83.0	72.9	70.7
観点	知識・技能	80.1	71.5	69.8
	思考・判断・表現	77.0	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

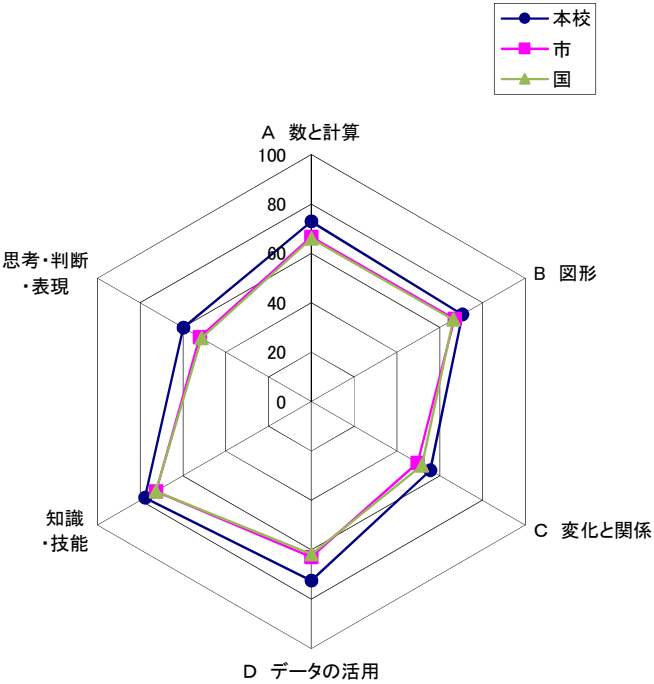
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○全体の平均正答率は73.5%で、市の平均を7.8ポイント上回った。 ○漢字を文の中で正しく使うことができるかの設問では、市の平均正答率を上回り、良好な状況が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字を繰り返し練習したり、今まで学習してきた漢字をテストなどで復習したりして、漢字の意味を考えながら文章の中で正しく使うことができるようにする。 ・主語・述語・修飾語などの文の組み立てを理解させ、文法に気を付けて文章の中で正しく使えるようにしていく。
(2) 情報の扱いに関する事項	○全体の平均正答率は92.2%と、市の平均を4.6ポイント上回った。 ○メモの書き表し方を説明した文を選ぶ設問では、市の平均正答率を5.6ポイント上回った。	・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解する活動を充実させる。 ・国語以外の教科の中でも、目的に応じて複数の情報を整理したり、関係付けて考えたりすることで、目的に応じて情報を活用する力を身に付けられるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○全体の平均正答率は94.1%で、市の平均を15.5ポイント上回った。 ○紹介文の内容を読み取り、振り返りとして適切な文を選ぶ設問では、市の平均正答率を上回り、無回答以外の児童が全員正解していた。	・様々な種類の本や古典に触れる機会を増やすことで、内容を読み取ったり、古典の面白さに気づかせたりする。 ・その都度、文書がどのような目的で書かれたものか明確にする。 ・作品を読み合う場を設定するなどして、相手の伝えたいことを理解できるようにする。
A 話すこと・聞くこと	○全体の平均正答率は69.3%と、市の平均を9.4ポイント上回った。 ○紹介文の内容をどのように整理したかを説明する設問では、市の平均正答率を24.5ポイント上回った。 ●話し方の工夫として適切なものを選択する設問では、市の平均を1.3ポイント上回ったものの、正答率が52.9%と低かった。	・授業において、自分の考えを伝え合う活動を充実させることで、目的や意図に応じて話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる力を身に付けられるようにする。 ・朝の1分間スピーチや総合的な学習の時間における発表など、目的や意図を明確にして話す機会を定期的に設定し個々の成長を促す。 ・他教科でも、意図を明確にして話す機会を設定し、目的をはっきりさせて内容を整理したり、メモにまとめたりできるようにする。
B 書くこと	○全体の平均正答率は79.4%と、市の平均を7.6ポイント上回った。 ●自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるかを見る設問では、市の平均は上回ったものの、条件に合わない文章で回答した児童も多く、書くことについて課題が見られた。	・必要な項目を抑えた上で、自分の立場や考えを明確にして文章を書く機会を意図的に設定する。 ・今後も作文指導だけでなく、新聞作りや学習の振り返りなどのいろいろな場面において、自分の考えや感想などを文章で表現する機会を増やし、目的に応じて文章表現の技能を高めていけるようにする。
C 読むこと	○全体の平均正答率は83.0%と、市の平均を10.1ポイント上回った。 ○物語の何に注目したのかを選択する設問では、市の平均を14.8ポイント上回った。 ●物語を読み、心に残ったところとその理由をまとめる設問では、市の平均正答率を9.3ポイント上回った。	・日々の読書を奨励し、より充実した読書体験をもたせ、読解力を高めていく。 ・物語文の学習では、叙述や描写を基に、登場人物の気持ちや人物像を捉えられるよう、繰り返し指導していく。 ・話し合いの文章では、双方のやり取りを理解し、文の主旨や内容を把握できるよう指導していく。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.9	66.7	66.0
	B 図形	70.6	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	55.6	49.6	51.7
	D データの活用	72.5	62.9	61.8
観点	知識・技能	77.8	72.6	72.8
	思考・判断・表現	59.9	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○全体の平均正答率は72.9%で、市の平均を6.2ポイント上回った。 ○除数が1/10になったときの商の大きさについて正しいものを選ぶ設問の正答率は84.3%で、県の平均を17.3ポイント上回った。 ●整数÷小数のわり算の設問では、正答率は64.7%と県の平均を1.2ポイント下回った。	・ドリル学習や習熟度別学習を通して、四則計算が身に付いてきている。 ・計算の技能をさらに高めていくために、今後も繰り返し学習し、定着を図っていく。
B 図形	○全体の平均正答率は70.6%で、市の平均を3.7ポイント上回った。 ○多角形の意味や性質を理解しているか問う設問では、正答率は86.3%で、県の平均を14.6ポイント上回った。 ●直方体の見取図について正しいものを選ぶ設問では、正答率は82.4%と県の平均を2.5ポイント下回った。	・直方体や円柱の見取図や展開図の理解に課題が見られるため、図形の観察や構成、分解などの操作活動を通して、図形の見方を深めるとともに、実感を伴って理解できるようにしていく。 ・図形を構成する要素とその関係に着目し、図形を弁別できるようにするとともに、基本図形の面積の公式の理解を深め、活用できるようにしていく。
C 変化と関係	○全体の平均正答率は55.6%で、市の平均を6.0ポイント上回った。 ○距離と時間から速度を求める設問の正答率は60.8%で、県の平均を10.8ポイント上回った。 ●示された場面から速度を求め、決められた距離から時間を求める設問では、正答率は72.5%と県の平均を4.6ポイント上回ったが、無回答率も3.9%とやや高く、伸び悩んだ。	・示された場面から必要な条件を取り出し、図や数直線を用いて関係を視覚的に表すことで、児童が実感を伴って理解できるように努める。 ・二つの数量の間にどのような関係が成り立つかを予想し、数や場面を変えても同じように関係が成り立つかを考えたり、なぜそのような関係が成り立つといえるのかを表現したりすることなどを通して、二つの数量の関係について考察する力を育てていく。
D データの活用	○全体の平均正答率は72.5%で、市の平均を9.6ポイント上回った。 ○二つの折れ線グラフを比較し見出した違いについて数や言葉を用いて表現する設問では、正答率が64.7%で、県の平均を20.9ポイント上回った。	・日常生活の事象について、目的に応じて、適切な分類・整理の仕方やグラフの表し方を判断し、データの特徴や傾向に着目して考察することができるよう、社会科や総合的な学習の時間など他教科とも関連させて、データを分析する経験を積むことができるようにしていく。 ・児童の興味・関心や問題意識に基づいてデータを収集し、円グラフや帯グラフに表したり読んだりすることを通して、データの特徴や傾向を捉え、結論を導いたり、結論について考察したりすることができるようにしていく。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の肯定的回答は、すべて全国・県の平均を上回っている。このことから、規則正しい生活の大切さを理解しており、好ましい生活習慣が身に付いていることがうかがえる。引き続き、家庭と連携していきたい。

○「自分には、よいところがあると思いますか」、また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では、当てはまると回答した児童の割合が全国・県の平均を上回っている。今後も、児童が自分のよさに気付けるように、学習や生活の様々な場面において、互いのよさを認め合う機会を増やしていきたい。

●「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答は、全国・県の平均を下回っている。キャリア教育のより一層の充実を図り、将来を見据えて学んでいける環境を整えていきたい。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的回答は、全国・県の平均を上回っている。今後も、困っている友達に手を差し伸べる姿を称賛したり、助けてもらったことへの感謝を伝える活動を行ったりして他者との関わりを深め、規範意識や自己有用感を高めていきたい。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」では、ともに肯定的回答が全国・県の平均を上回っている。このことから、自己の向上に努めたり、自他の考えを尊重したりしていることがうかがえる。今後も有意義な学校生活を送り、認め励まし合えるような人間関係作りに努めていきたい。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に対する肯定割合は、全国・県の平均を上回っている。地域の方々が学校行事に熱心に協力して下さることや、地域の行事が身近にあることが本校のよさであり、それを児童もしっかりと学びとっていることがうかがえる。地域の方への感謝の気持ちをもつと共に、地域を担う一員としての自覚をさらに高められるようにしたい。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」、「学級活動における学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の肯定的回答は、ともに全国・県の平均を上回っている。今後も、学級での話し合いの場を確保し、学級会計画委員を中心に学級活動に取り組んでいきたい。

●「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」では、週3回から毎日使用したと回答する割合が、全国・県の平均を下回った。ICT機器を効果的に活用し、個別最適な学びや主体的・対話的で深い学びの充実を図っていきたい。

宇都宮市立昭和小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本定着のための「じっくりタイム」の実施と家庭学習の習慣化	学校全体の学力アップ月間を年2回設け、計算力や漢字力アップなどのポイントを絞って基礎学力アップを図っている。また、保護者とも連携し、「家庭学習の記録」を活用して、家庭学習を充実させている。継続的・計画的に適切な分量・内容の宿題を出し、保護者とも連携しながら、家庭学習の習慣を身に付けられるようにする。	月曜日から金曜日の家庭学習の時間については、1時間以上学習している児童が53%と全国の平均を1.6ポイント、県の平均を7.1ポイント下回った。また、休日の家庭学習の時間についても、1時間より少ないと回答した児童が51%と半数を占めている。 学校で学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているかという質問に対する肯定的回答は90.2%と、全体の9割を占めている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
条件に応じた文章の書き方 根拠をあげて自分の考えを文章にまとめる力	条件を提示して、それに即した文章を意図的に書く場を設定する。 自分の考えを伝える際、その根拠となる事項や情報を明確にすることを意識的に指導する。	資料を活用して自分の考えを伝える学習では、自分の伝えたいことに応じた資料を選択したり、目的に応じてグラフや表などを読み取ったりする学習を丁寧に行う。 学年、発達段階に応じて、文章の構成や言葉の選択などを意識した書く活動を取り入れていく。また、まとめやふり返りの場面で、設定されたキーワードを使って文章を書いたり、児童のふり返りを紹介したりして、書く活動を充実させていく。